

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700125		
法人名	株式会社 大渡		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岩見沢市7条西5丁目5-8		
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanri=true&JijyoCode=0195700125-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和3年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設からほとんど職員の入れ替わりもなく、利用者様との関係性、ご家族様との関係性がその分構築できているのではないかと考えています。関係性があるからこそそのケアや関りができることが私たちの強みだと捉えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわりは、市のほぼ中心部の住宅街に開設して6年目です。地域住民との相互交流を行い、地域貢献にも力を入れています。今年度はコロナ感染症対策の徹底を図りながら、利用者の今できる活動を模索し、クリスマス会や室内レク活動、花見や紅葉見物、桂沢湖周辺など三密を避けた外出、駐車場で焼肉会を開くなど、気分転換や楽しく過ごせるように努めています。食事の面でも工夫し、食べたいものや希望により献立をアレンジしたり、寿司パーティーや弁当の取り寄せ、ピザや手作りおやつなど、食の楽しみが充実しています。職員と利用者、職員と家族とのコミュニケーションにより、信頼関係を築いています。利用者には日常の様々な場面で、ケアの方法をはじめ、レクへの参加など、本人の意向を尊重して支援しています。家族と利用者の繋がりへの支援では毎月の通信や個別の手紙、電話連絡や窓越し面会やリモートでの面会も行い、それぞれの意向に沿うように努めています。訪問診療体制や受診同行の支援を行い、週4日勤務の看護職員と連携して健康面を支えています。職員は長く勤務する介護福祉士等の有資格者が多く、認知症ケアの基本姿勢に基づき、利用者一人ひとりの立場に立ち笑顔溢れる環境作りをしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念はリビングの見やすい場所に掲示している。会議や研修会などを通じて、理念の実践に向けて話し合いや確認を行っている。	日常業務の中で理念の実践に取り組んでいます。新人職員には理念の意味をかみ砕いて説明し、職員全体で統一した方針を共有しています。現在系列法人の他事業所と共に理念の見直しに着手しており、職員の意見を取りまとめ本部に提出しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策が重要視されるなか、つながりの確保については、難しい部分もあるが、日頃の挨拶や近隣含めお便りの配布等書面上のつながりを心掛けている。	例年は地域交流をはじめ、毎月のケアカフェで地域交流の場を提供していました。現在は自粛していますが、除雪の時などで近隣の人達から地域情報を聞いたり、利用者の様子を気遣ってもらうなど、適切な距離を取って交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は毎月1回のケアカフェを開催していたが現状では休止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からのアドバイスから取り組みの幅が広がったことや新たな気付きが得られサービスの向上につながっている。(行事関係など)今年度は書面上で開催している。	今年度は書面会議を行い、報告書の表紙に事業所や利用者の様子が分かるよう写真を載せています。感染症対策や外部評価等も報告し、市や地域包括支援センター、民生委員、家族代表の各参加者から意見を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話などでさまざまな助言を頂くことが出来ており、報告・相談しやすい協力関係が築けているように感じている。	市の担当部署とメールや電話などで連絡を取り、コロナ感染症対策など必要な情報を共有しています。利用者の入院や看取りの指針へのアドバイスなど、個別の支援や運営に関することまで相談を行い、運営が適正に行えるようにしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外の研修会の参加・施設内での研修会や他事業所と連携して身体拘束適正委員会を設置して身体拘束をしないケアの実践に繋がっている。	身体拘束適正化の指針を作成し、系列事業所合同の適正化委員会と年2回の職員勉強会を行っています。不適切と考えられる言葉使い等は会議で注意喚起し、事例検討を通じて職員一人ひとりが利用者の自由な暮らしと安全に過ごすための支援を実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を設置して不適切なケアについて検討し虐待につながってしまわぬよう理解を深め防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修には参加できていないが、利用者に成年後見制度を利用されている方おり、現場でのお話や相談しやすい関係性がとれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、お互いに誤解をうまないよう話し合いを重ねている。また、重要事項の説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ささいな事でも話し合えるような雰囲気づくりを心掛けている。日常の生活の状況報告として毎月お便りを配布している。	面会ノートを作り、家族の意見等の情報を集約し職員が共有しています。運営推進会議議事録や毎月の通信、個別の手紙で事業所や利用者の状況を知らせ、意見を言いやすい環境を作っています。今年度は電話連絡を行っています。それぞれの家族の希望に沿って利用者との窓越しやリモート面談を取り入れています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡ノート、日常の会話等で意見や提案が出されている。都度反映されたり、管理者・主任・リーダー・計画作成担当者との会議で検討している。	事業所開設時からの職員が多く、日常的に意見や提案を吸い上げています。職員会議や四者(役職者)会議で検討し、運営等の反映に繋がっています。管理者による随時の面談でも職員それぞれの意見を聞き取り、対話を深めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に出て、スタッフの様子、行われている支援を把握している。月に一回職員会議とは別に管理者、主任、職員との話し合いの場を設け環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や定期的に内部研修会を行いケアの向上に努めている。また職員は定期的に自己チェックシートで自己評価をしてもらい、管理者と面談し目標に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	施設外での研修会の参加を通じて、同業者との交流の機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度はZOOMをつかった研修会などを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談や入居前訪問で本人の状況を把握するよう努めている。入居後においても職員間で情報を共有し合い、気持ちに寄り添いながら関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、入居前の段階から家族が感じている想いをくみとれるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来ることや難しい事があるなかで、相談を受けた際に、本人・家族などに確認し、出来る限り柔軟な対応を行っていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさのある生活をおくって頂けるように日々の生活のなかで人生の先輩としてさまざまなことを教えてもらい、暮らしを共にする者同士の関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の会話だけでなく、生活状況報告書など書面での伝達や希望に合わせ、小まめな電話連絡をするなど、本人同様に大切な存在として捉えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は感染対策のなか面会を中止する機会が多くありますが、キーパーソンのご家族だけでなく親戚の方々にも誤解をまねかないようご家族からも一方を入れていただくなど協力をお願いしている。	感染予防のため面会制限を継続しており、親しい人達との関わりは、電話等の取次ぎで対応しています。利用者の過去を振り返るような機会としてアルバムを見て本人の大切な人の話題や昔話を聞くようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクリエーション活動など利用者同士の関わりや性格を考慮したうえで、関わり合いや支え合えるような支援の配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	物資の支援や電話でのやりとりなど関係性が保たれているご家族様もおり、こちらとしても何か協力できることはしていく旨を伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から穏やかな雰囲気づくりを目指し、本人との会話ややりとりのなかで暮らしの希望や意向の把握に努めている。	利用者は、自ら言葉で思いを伝えられる人が多く、職員は話しやすい場面作りに努めています。聞き取りが困難な場合には、今までの関わりから得た好き嫌いや、全体の様子から本人の意向を察し、本人本位の支援の方向性を見出しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との会話や基本情報などの書面を通じ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきや変化を感じ取り、対応していけるよう記録や職員間でも話し合うことで情報を共有し合い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でも意見交換を行ったうえでモニタリングやカンファレンスを実施し、また家族にも意見交換や確認のうえで、介護計画を作成している。	担当職員のモニタリングを基に、ケース会議で協議しています。本人と家族の意向を確認し、医療面の注意点も含め、3か月毎に介護計画を見直しています。日々の記録を詳細に記載し、状態が変化した場合は計画変更を行うなど、その時々に必要な支援が行えるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方や書式についても話し合い、よりスムーズな情報の共有ができるよう取り組んでいる。職員間の周知のもと、話し合いや記録をベースに介護計画を見直し実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設から在籍しているスタッフがほとんどということもあり、利用者・チーム間の関係性も良く既存にとられないサービス、今、その時を大切にできるサービスを提供しやすい環境のように感じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度に関しては、地域資源の活用という視点より、ホーム内では感染対策に留意しつつどのような取り組みが安全で豊かな暮らしにつながるのかについて話し合いが行われていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用されている病院に家族や職員で対応している。また状況に応じ、家族と本人の了承のもと往診可能な東町ファミリークリニックに転院して頂き対応している。	利用者、家族の希望する医療機関に受診することや、週1回の訪問診療も選ぶことができます。受診は職員と家族で協力して行っています。週4日看護職員を配置することで状態の変化を相談しやすく、看護師ノートでも情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との相談や状況報告のもと適切な受診が受けられるよう努めている。また、週に4回の勤務なため、看護師の状況把握もでき相談しやすい環境と感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急遽の入院にも対応できるように、内服薬や既往歴など本人の状況をまとめた医療情報シートを作成している。またホームとしても出来る限りの柔軟な対応ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期ケアにむけた指針の説明を行い、本人・家族と話し合いを重ね、希望に寄り添ったケアに努めている。また終末期を迎える前には往診医に転院して頂き支援に努めている。	重度化や看取り介護については、入居の際や状態の変化の都度話し合いをしています。重篤時は主治医の判断の下、家族、場合によっては訪問診療医も交えて話し合い、覚書を作成しています。日々ケアを振り返りながら利用者、家族の希望に沿うように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議での話し合いや急変時などの対応マニュアルを作成、また今年はコロナ対策におけるマニュアルも作成		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回火災避難訓練を消防署や地域の協力を得て取り組んでいる。また、全職員が避難訓練に参加できている。	例年は、消防署、地域住民も参加しますが、今年度は事業所のみで8月と12月に夜間を想定した火災時避難訓練を行いました。水や食料は適宜入れ替えて保存しています。発電機などで停電対策を講じています。	火災だけでなく、その他の緊急時にも対応できるように備えていくことが必要です。非常災害時対応マニュアルに基づき、水害等を想定した避難訓練を実施するなど、さらなる防災対策の強化に向けた取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	暮らしを共にする者として、時には親しい声掛けをすることもありますが、人生の大先輩として利用者との向き合い方を研修会や会議、ときには現場などで行っている。	一人ひとりの利用者を尊重する姿勢をケアサービスの基本として、会議やケア場面で確認しています。名前はさん付けや本人の希望の呼び方とし、入浴は希望を尊重し、同性介助を行うなどの対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の対話、やりとりのなかで本人の希望を汲み取り、実践していけるように努めている。自己決定の尊重の大事さを研修会や会議などを通じ、日々学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	日々の暮らしのなかで、習慣化するのではなく、本人の言葉や表情、行動に寄り添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や衣類などの買い物の希望に合わせ取り組むことや職員から提案することもあり、身だしなみについて普段から配慮を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事楽しみの一つと捉えているが今年度は感染対策のなかで職員と利用者が別々に食事を摂り利用者の座席も対面にならないよう分けている。	コロナ禍の中で、食事の楽しみが増えるよう工夫をしています。その時々要望を聞き、献立をアレンジしたり、お弁当の取り寄せや握りずし、ピザやたこ焼きパーティー、手作りおやつ等も趣向を凝らし種々取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録に書きとめている。また食事や水分の確保が難しい場合は、時間をおくことや代替えた食事を摂って頂くなど柔軟な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者への往診をうけている。その際、口腔内のケアについてのアドバイスをもとに支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録や仕草、行動のなかから排泄のパターンの把握や必要に応じて羞恥の面に配慮した声掛けに努め、排泄の失敗が減るよう配慮に努めている。	できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。一人ひとりの排泄間隔やサインを見逃さず、誘導につなげ、排泄の失敗を少なくしています。リハビリパンツ等の使用の際は、自立や意欲に結び付くかなどの視点で検討し、本人に提案し意向を聞いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人と予防改善にむけた相談や飲食物の工夫や運動の取り組みをしていけるよう朝の申し送り時に話し合い実践している。また、看護師からのアドバイスも頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	日中帯の3時間程度の限られた時間のなかで希望に寄り添えるよう相談や配慮に努めている。状況に応じて午前も入浴をしている。	利用者ごとに週2～3回の入浴を支援しています。入浴の順番や一人でゆっくり入りたいなどの希望に沿い、職員間で連携し対応しています。入浴時は利用者がゆっくりと気持ちや昔話を話せる時間とし、満足してもらえるような入浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境への配慮や夜間帯の様子、本人の表情、想いを大切に柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や効能、副作用が把握できるよう服薬ファイルを作成している。また医師や非常勤看護師からどのようなことが考えられるかを聞き、変化に気づけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染対策に留意する中で歌レク等は控えているが一人一人楽しみのもてる取り組みについて、時にはご本人も交え話合っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	3密になりえる外出は避けていますが、花見やドライブ・散歩などのホーム内だけではなく戸外へ出る機会を市内の感染状況に応じて取り組んでいる。	最新の感染状況を確認しつつ、花見や紅葉見物、湖へのドライブに出掛け、気分転換を図っています。地域住民の畑で掘り起こした大根で漬物作りをしたり、事業所の駐車場で地域の人を交えた焼肉会や焼き芋作りをするなど楽しみごとを提供し、現状で可能な戸外活動に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の段階から利用者・家族との話し合いを重ねている。また生活状況のなかでの変更もあり、ご自身でお金を所持されている方や、そうではない方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があり、相手が初めての方の場合は家族連絡をして確認をとったうえで支援させて頂くこともありますが、できるだけ柔軟な対応ができるよう努めている。また、利用者のなかには携帯電話を所持している方がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあわせた装飾や混乱を招かないよう温かみのある色を使った案内表示を掲示するなど居心地の良く、住みやすい環境への配慮に努めている。	共用空間にある食卓やソファの他、廊下にも椅子を置き、自由に過ごせる居場所を設けています。季節感のある装飾をし、皆で作ったちぎり絵や花飾りも温かみが感じられます。大きな時計や日めくりを掲示し、温・湿度、換気等の配慮などで居心地の良い環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室だけではなく、窓から景色が見える廊下や共同スペースに椅子を配置し、その時の気持ちに配慮できるような居場所の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、その人らしさを感じる個性が表れ、本人が使い慣れたものを中心に用意して頂いている。また生活状況の変化に合わせて、相談や提案のもと職員と共に模様替えなども行っている。	居室には、馴染みの家具等が持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾っています。利用者の状態の変化に応じて本人や家族と話し合い、安心して過ごせる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、また歩行器を使うことで自由に歩くことができる。生活のなかでのつまずきが少しの工夫でできることに変わる支援ができるよう安全面に配慮し、取り組んでいる。		